

5-12 URA による研究 DX を推進するデータの整備・構築 MIRAI-DX プロジェクト（文部科学省）

研究大学コンソーシアムに参画する国立大学等 36 機関では、自然科学研究機構が事務局となり、研究大学強化促進事業 2020 年度補正予算により URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）の活動に資するデジタルトランスフォーメーション（DX）プラットフォームの構築を行った。URA の研究支援活動の一部を DX 化することで共同研究ネットワークの構築を推進し異分野人材交流を活発化することが狙いである。

これからの科学研究のあり方の一つとして、研究者個人の意思や能力だけに頼るのではなく、個々の研究者の強み・特徴をデータベース化することで大学・研究機関の組織に研究力情報を集約し、データベース情報に基づいて、個々の研究者では案出し得ないような共同研究モデルを創出することが考えられる。研究者個人や研究機関単独の取り組みでは研究グループの組織編成・分野交流に限界があったところを、本事業プロジェクトでは全国大学の URA が仲介・伴走することで、組織の枠を越え異分野融合・産学連携をなし、急激な世界の研究進展の潮流に乗り社会課題の迅速な解決に貢献することを目指す。構築された研究者データの DX プラットフォームを活用し参加機関の URA が協働することで、国内の科学研究を縦横無尽に分野・機関を越えてつなぎ、共同研究を推進することを期待した取り組みである。

2021 年度は DX プラットフォーム完成前のため、URA による共同研究ネットワーク構築の人的試行を実施した。「ポストコロナ」をトップダウン研究テーマとして当該コンソーシアム参画機関からエントリー研究者を募り、共同研究マッチング活動を全国規模で展開した。

分子研からは 3 名の研究者に URA が伴走して共同研究マッチング活動に参加した。他機関研究者に伴走する 13 名の URA と連絡調整し、研究興味的一致しそうな研究者同士をつないだ。オンラインワークショップ、オンラインの個別研究打ち合わせ、さらにサイトビジットを開催し、共同研究の芽を探索した。共同研究の進展具合としては、資料・試料の授受による試算・試行実験を実施し、秘密保持覚書の研究者間取り交わしや研究費獲得のための申請準備開始に繋がった。

2022 年度には、完成した DX プラットフォームを活用し、人的試行で得られたノウハウを組み合わせた共同研究マッチングをパイロットフェーズとして行う予定である。